

二月十八日(木)

〈人間健康学部 健康栄養学科〉

平成二十八年度 金沢学院大学 入学試験問題（一般入試Ⅱ期）

国語

（注意事項）

解答用紙に「国語」と記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから12ページまであります。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用するのには法律で禁じられています。

（解答上の注意）

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

10

と表示のある問いに対して

④と解答する時は、下記の（例）のように解答番号10の解答欄の④にマークしてください。

（例）

解答番号	解 答 欄									
10	①	②	③	●	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

問題は、次のページからです。

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～7）に答えよ。

ところで村で暮らしている人間にとっては、動物に対する評価は今日でも複雑である。私が暮らす上野村だけでなく、一九九〇年代に入った頃から作物の動物による被害がほとんどの山村で激しくなっている。ジャガイモ、ヤマイモ、大豆が食べられてしまうのはイノシシの^①シワザで、大豆はサルが食べにくることもある。サルはネギ、シイタケ、果物、ときにカボチャやスイカ、白菜なども狙ってくる。もうひとつ被害の大きい動物にシカがいる。シカは葉のあるものなら何でも食べる。イノシシのいない東北の山村以外では、ほとんどの山村でイノシシ、サル、シカが田畑を荒らしている、村人は困りはてるようになった。

このような状況が発生しているのだから、これらの動物は村人にとっては害獣である。しかしこんな事態になってもなお、村人は動物に対して、同じ村に暮らす仲間だという意識ももっている。村という言葉は、伝統的には、人間社会を意味する言葉ではなく、自然と人間の暮らす社会をさしている。とすれば動物もまた村人のメンバーであり、共同体の仲間である。

実際村人は、動物をみる多様な視線を並存させてきた。ある種の動物は、ある場合では害獣である。しかしその前に村で暮らす仲間で、ところがその動物は冬の猟期には狩猟の対象にもなる。その一方で人間以上の能力をもった生き物として尊敬され、さらに神の世界への道筋を知っている^②レイリヨクをもっている^③とあがめられることもある。こういうかたちで語られるときの神とは、自然そのものであり、自然の真理とでもいうべきものであるのだが。

このように述べていくと、人間と動物の関係が矛盾しながら重なり合っていることに気づかれるであろう。仲間だといいながら獵の対象にもする。尊敬を払いながら、害獣ともみなす。どう考えても、矛盾した関係が並存しているのである。

それを人間がもたざるを得ない絶対矛盾としてとらえるのが、日本の伝統的な民衆精神だったのではないかと私は思っている。もちろん、生きるために、ときに動物から畑を守り、ときに動物を獲って食べたり皮を得たりすることは許される。なぜ許されるのかといえば、自然の生き物たちもまたそうしているからである。鳥は木や草の実を食べるし、キツネは野ネズミや野ウサギを追う。虫は草や木の葉を食べる。自然がそのような関係になっっているなら、自然の一員としての人間も同じことが許されるはずだ。

ところが人間はややこしい問題を背負わされている。それは自然の生命を採取したり、動物と対立したりする理由が、純粹な生命的な行為なのか、それとも自分の「欲」がからんだ行為なのかを明確にできない、という問題である。

たとえば狩猟によって動物を捕獲するとき、それがキツネやタカ、ワシと同じことならそれは㉔「自然の行ない」である。ところが人間は「自然の行ない」としてそうするだけでなく、狩猟によって富を得ようという意識ももつし、㉕ひとつの自己主張、自己表現として狩猟をおこなうというような面をも併せもつ。後者は「自然の行ない」ではなく、「自己」、あるいは「我」、「個我」をもつ「人間の行ない」である。「自己」があるから自己目的が生じ、それがときに富の増加をめざさせ、ときに自己主張や自己表現を目的意識として生じさせる。

とするとこのような「人間らしさ」は肯定できるのか。

私は「できない」と日本の民衆は考えていたのではないかと思っている。ここでいう日本の民衆とは、自然とともに、自然のなかで暮らしてきた村の人々のことであり、都市の人々はとりあえず㉖ジヨガイして、私はこの言葉を、ここでは、用いている。そうしないと自然とともに生きた人々の精神を明らかにすることができないからである。

それが「自然の行ない」なら肯定できるが、「自然に反する行ない」なら肯定できない。しかしそう考えたとしてもまだ問題は起きる。なぜなら人間には、「自然の行ない」と「自然に反した行ない」との間に、区別しきれない部分があるからである。

たとえば富を蓄積したいと考えたときでも、そのことによって権力を得ようとか、㉗ユウフクな暮らしがしたいということなら、明確に自然に反するだろう。なぜなら自然の生命たちは、そんなことは考えないからである。ところが将来訪れるかもしれない苦境に備えるために、多少は富を蓄積しておこうというのならどうなるのか。自然の生き物でも、リスや野ネズミなどは、多少の食料を備蓄するし、蜂は冬を越すために蜜を貯めるのである。とすると多少貯めこむのは生きるための行ないといえなくもない。

しかし、それでもなお人間が行なう貯えは、自然界の生き物のそれとは違っている。ひとつに自然界の生き物は必要量しか備蓄しないが、人間はその必要量がわからないから、不安がある限り貯えを増やしつづけることになる。もうひとつは、たとえばリスや野ネズミも匿かくしておいた木の実などを食べきらずに、そのまま残してしまうことがある。ところがそのことによって木の実が遠くに運ばれ、木にとってはそれがむしろ有効性をもつ。つまり残すところが無駄になっていないばかりでなく、自然というつながり合う世界から、リスや野ネズミの行為は離れない。それに対して人間の同じような行為は、あくまで自己自身のため、せいぜい家族のための自己目的的行為であり、つながり合う世界が消えているのである。

それならわずかな貯えでもいいけないのか。それを否定されてしまったら、生きつづけるという行為自体が人間には成り立たない。

㉘問題はこの両者の境界線がわからないことにある。なぜそうなってしまうのか。それは人間が自己自身の生に対する不安をもっているからであり、そうであるかぎり不安が解消されなければ、自分の課題も終了することがない。不安をとおしてものを考えるから、解消されるまで㉙サイゲンが

ない。しかも生に対する不安は個人的なものだから、結び合う世界をもちえないのである。

不安がその解消のための欲望を生み、それが向上心を導きだし文明の発展に寄与すると把握すれば、(エ)通俗的な人間讃歌となる。もっともヨーロッパの思想においても、たとえばキルケゴールは人間であるがゆえに解決できない不安、神と結び合うことで超越することによってしか解消できない不安を導きだしているように、人間の本源的なものをとらえようとする人々にとっては、通俗的な人間讃歌は肯定しうるものではなかったのだが。

日本においては、自然とともに、自然の近くで暮らしていた人々にとっては、たえず自然の姿がみえているからこそ、自然のままに生きることでできない人間の問題もみえていた。しかもなぜ自然のままに生きられないのかは、人間の本性に根ざしている。その本性とは生のなかに「自己」や「我」、「個我」を内在させていることである。生を自己の生としてとらえ、そこから不安が生まれる。そしてそういう人間のあり方を(オ)凡夫の姿としてみていたのがかつての人々であった。そしてそうであるとするなら、自然は清浄である。なぜなら必要以上に自己を主張することもなく、春になれば花をつけ、秋が深まれば枯れる、ただそれだけの自然の営みを不安をいなくことなく受け入れているからである。

(内山節『日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか』による)

問1 傍線部①～⑤に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

1

 ～

5

。

① シワザ

1

- ① 提案をシジする。
- ② シンシ淑女の集まり。
- ③ シヨウ末節にこだわる。
- ④ ホウシ活動に参加する。
- ⑤ シフクを肥やす。

② レイリヨク

2

- ① 研究にゼンシンゼンレイをささげる。
- ② 推理小説作家としてレイメイが高い。
- ③ レイギ作法をたたき込まれる。
- ④ レイサイ企業。
- ⑤ カレイな踊りに見とれる。

③ ジョガイ

3

- ① 風が強いでジョコウ運転を行う。
- ② 責任感がケツジョしている。
- ③ 見たことをそのままジョジュツする。
- ④ 非行をジョチョウする有害図書。
- ⑤ 警報をカイジョする。

④ ユウフク

4

⑤ サイゲン

5

- ① サークルにカンユウする。
- ② 大差をつけヨユウで勝つ。
- ③ ユウガな生活を送る。
- ④ 執行ユウヨ。
- ⑤ ユウリヨに堪えない。

- ① 正社員としてサイヨウされる。
- ② 借金をヘンサイする。
- ③ サイダイ漏らさず報告する。
- ④ 記事が雑誌にケイサイされる。
- ⑤ コクサイ協力に貢献する。

問2 傍線部(ア)「自然の行ない」とあるが、この意味について述べた①～⑤の中から、最も適当なものを一つ選べ。解答番号は、

6。

- ① 生命の根源的な矛盾を解消する行為。
- ② 生命の共生を人間にもたらす行為。
- ③ 生命の維持だけを目的とした行為。
- ④ 生命の自己を顧みない清浄な行為。
- ⑤ 生命の連鎖によって生態系を保つ行為。

問3 傍線部(イ)「ひとつの自己主張、自己表現として狩猟をおこなう」とあるが、これについて説明した①～⑤の中から、最も適当なものを一つ選べ。解答番号は、

7。

- ① 村人が代々守って来た伝統的なやり方にとらわれず、自由な方法で自分独自の狩猟を行うこと。
- ② 自分自身の存在に対しての根源的な問いに、何らかの答えを見出そうとして狩猟を行うこと。
- ③ 何のために何を獲るかということより、その方法の歴史的な意味や価値を重視して狩猟を行うこと。
- ④ 本来の目的を離れて、芸術のように享受者の美意識や感覚に訴えかけるように狩猟を行うこと。
- ⑤ 自らの力を誇示し、その存在を他者に認めさせたいという欲望を満たすために狩猟を行うこと。

問4 傍線部(ウ)「問題はこの両者の境界線がわからないことにある」とあるが、「この両者」について説明した①～⑤の中から、最も適当なものを一つ選べ。解答番号は、8。

- ① 純粹に生命を守るための蓄積なのか、所有欲の限界を上回る蓄積なのか。
- ② 純粹に他者のための蓄積なのか、自己の生存が絡んだ蓄積なのか。
- ③ 純粹に自然の秩序にしたがった蓄積なのか、自然を破壊する蓄積なのか。
- ④ 純粹に生きるための蓄積なのか、過剰な防御意識がもたらす蓄積なのか。
- ⑤ 純粹に自然と一体化するための蓄積なのか、人が自立するための蓄積なのか。

問5 傍線部(エ)「通俗的な人間讃歌」とあるが、これについて説明した①～⑤の中から、最も適当なものを一つ選べ。解答番号は、9。

- ① 人間が持つ不安は、文明発展になくはならない貴重な人間の特質であると考えること。
- ② 人間が持つ不安は、人間の果てしない欲望の膨張に歯止めをかけるものであると考えること。
- ③ 人間が持つ不安は、神という超越的な存在との結びつきを人間に促すものであると考えること。
- ④ 人間が持つ不安は、向上心に変化することによって克服できるものであると考えること。
- ⑤ 人間が持つ不安は、人間にとって本源的な個我の意識の原点となるものであると考えること。

問6 傍線部(オ)「凡夫の姿」とあるが、「凡夫」に当てはまる最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。解答番号は、10。

- ① 文明を享受している人間
- ② 自然とともに生きている人間
- ③ 神と結びあえない人間
- ④ 共同体の外にいる人間
- ⑤ すべての人間

問7 次の①～⑤の中で、本文の論旨に合っているものを一つ選べ。解答番号は、11。

- ① もともと自然とともに暮らしてきた村の人々は、富を蓄積したり、権力を得ようとしたりする欲望から無縁の暮らしをしていた。
- ② キルケゴールは、「個我」を持つゆえに人間が抱えてしまった不安は、最終的には神によって救われると楽観的な展望を持っていた。
- ③ 村の人たちは自然の中で暮らしながら自然のままに生きられないという矛盾を、矛盾のまま抱えながら自然とともに生きてきた。
- ④ 日本の伝統的な社会では生きるために仕方なくやってしまったことは、お互い様であるのでどのような悪事でも許し合った。
- ⑤ 日本で伝統的な民衆精神が生きていた時代には動物は人間と共存していたが、西欧の人間中心の考え方が伝わると害獣とみなされた。

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～8）に答えよ。

「私」は、三十歳の主婦である。歯科医の夫と小学生の息子が一人いる。何不自由のない生活を送っていたが、何日間も全く睡眠がとれない状態になった。それは不眠症とは違い、日中の活動に何の影響もないばかりか、体調は以前よりよくなっている。「私」はこの変調を夫にも子どもにも伝えていない。

いったい私に何が起きているのだろうか？

私は医者に行くことも考えてみた。私には子供の頃から世話になっている気心の知れた知り合いの医者がいる。でも医者が私の話を聞いてどんな反応を見せるだろうかと考えてみると、だんだん気が重くなってきた。だいたい彼は私の話をそのまま信用してくれるだろうか？一週間もまったく眠っていないなんて言ったら、彼はまず私の頭を疑うだろう。あるいはただの不眠症のノイローゼとして片付けてしまうかもしれない。あるいは私の話をすっかり信用して、私をどこかの大病院に送り込んで検査を受けさせるかもしれない。

それでどうなるだろう？

私はそこに閉じ込められ、あっちこちとたらい回しされて、いろんな実験を受けるだろう。脳波やら心電図やら尿検査やら血液検査やら心理テストやら。なにやかや。

私はそんなものに①ガマンできそうになかった。私はひとり静かに本を読みたかった。毎日一時間きつちりと泳ぎたかった。そして私は何より自由というものがほしかった。それが私の望んでいることだった。病院なんか入りたくない。それに病院に入ったからといって、彼らにいったい何がわかるだろう？彼らは山ほど検査をして、山ほど仮説を立てるだけなのだ。私はそんなところに閉じ込められたくなかった。

ある日の午後、私は図書館に行って、眠りについての本を読んできた。眠りについての本はそれほど②タクサンはなかったし、たいしたことは書いてなかった。結局、彼らの言いたいことはただひとつだった。眠りというのは休憩である——それだけのことだ。それは車のエンジンを切るのと同じなのだ。ずっと休みなくエンジンを動かしていると、それは③ソウバン壊れてしまう。エンジンの運動は必然的に熱を生じるし、こもった熱は機械そのものを④ヒヘイさせることになる。だからそれは放熱のために休ませなくてはならないのだ。クールダウンするのだ。エンジンを切る——それがつまり睡眠である。人間の場合、それは肉体の休みであると同時に精神の休みでもある。人は体を横たえて筋肉を休ませると同時に、目を閉じて思考を中断させる。それでも余った思考は夢というかたちで自然放電させる。

ある本に面白いことが書いてあった。人間というのは思考においても肉体の行動においても、一定の個人的傾向から逃れることはできないと、そ

の著者は書いていた。人というものは知らず知らずのうちに自分の行動・思考の傾向を作り上げてしまうものだし、一度作り上げられたそのような傾向はよほどのことがないかぎり二度と消えない。つまり人はそのような^(テ)傾向の檻かごに閉じ込められて生きているわけだ。そして眠りこそがそのような傾向のかたよりを——靴のかかとの片減りのようなものだ^(ト)と著者は書いていた——中和するのである。つまり眠りがそのかたよりを調整し、治癒するのだ。ひとは眠りの中でかたよって使用された筋肉を自然にほぐし、かたよって使用された思考回路を^(ニ)チンセイし、また放電する。そのようにして人はクールダウンされるのだ。それは人というシステムに宿命的にプログラムされた行為なのだ、誰もそこから外れることはできないのだ。もしそこから外れたら、存在そのものが存在基盤を失ってしまうことになる、と著者は書いていた。

傾向？ と私は思った。

傾向という言葉から私が思いつけるのは家事のことだった。私が無感動に機械的につづけている様々な家事作業。料理や買い物や洗濯や育児、それらはまさに傾向以外のなものでもなかった。私は目をつぶっていたってそれくらいのことにはやっていくことができた。何故ならそれはただの傾向にすぎないからだ。ボタンを押して、レバーを引く張るのだ。そうしていれば^(ウ)現実というものはどんどん先に流れていくのだ。同じような体の動かし方——ただの傾向だ。そのようにして、私は靴のかかどが片減りするように傾向的に消費されていき、それを調整しクールダウンするために日々の眠りが必要とされるのだ。

そういうことだろうか？

私はもう一度注意深くその文章を読みかえしてみた。そして肯いた。そう、たぶんそういうことだろう。じゃあ、私の人生というものはいったい何なのだ？ ^(エ)私は傾向的に消費され、それを治癒するために眠る。私の人生はその繰り返しに過ぎないんじゃないか？ どこにも行かないんじゃないか？

^(エ)私は図書館の机に向かって首を振った。

眠りなんか必要ない、と私は思った。もし仮に発狂するとしても、眠れないことで私がその^(カ)存在基盤を失うとしても、それでいい、と私は思った。構わない。私はとにかく傾向的に消費なんかされたくない。そしてその傾向的消費を治癒するために眠りが定期的を訪れるのだとしたら、そんなものはいらない。私には必要ない。もし私の肉体が傾向的に消費されざるを得ないとしても、^(キ)私の精神は私自身のものなのだ。私はそれらきつちりと自分自身のために取っておく。それは誰にも渡しはしない。治癒なんかしてほしくない。私は眠らない。

そう決心して私は図書館を出た。

(村上春樹「眠り」による)

問1 傍線部①～⑤に当たる漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中から、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は 12 ～ 16。

① ガマン 12

- ① マンセイ的な病氣。
- ② マンメンの笑み。
- ③ マンイチの事態に備える。
- ④ マンガ雑誌を買う。
- ⑤ 任期マンリョウ。

② タクサン 13

- ① 販売をイタクする。
- ② タクエツした手腕。
- ③ コウタクのある表面。
- ④ 荒地地をカイタクする。
- ⑤ 二者タクイツ。

③ ソウバン 14

- ① ピアノのバンソウ。
- ② 産業のキバンを強化する。
- ③ バンゼンの対策。
- ④ 大器バンセイ。
- ⑤ バンユウをふるう。

④ ヒヘイ 15

- ① オウヘイな態度に腹が立つ。
- ② ヘイガイを伴う。
- ③ 難問だらけの試験にヘイコウする。
- ④ 隣国をヘイゴウする。
- ⑤ ヘイオン無事を祈る。

⑤ チンセイ 16

- ① チンタイ住宅。
- ② 研究にチンセンする。
- ③ 法廷でチンジュツする。
- ④ 一大チンジ。
- ⑤ 政界のジュウチン。

問2 傍線部(ア)「傾向の檻」とあるが、この意味について説明した①～⑤の中から、最も適当なものを一つ選べ。

解答番号は、17。

- ① 人の行動と思考は、他者との関係が前提となっており、自己の存在基盤には他者という壁が必然的に設けられているということ。
- ② 人は成長するにしたがって自我の意識が確固としたものになってくるが、それが逆に行動と思考の柔軟性を奪うことになるということ。
- ③ 人は自由に行動し、思考しているように見えても、本人が自覚していない間に形成された行動や思考の型に縛られているということ。
- ④ 人は客観的、論理的な思考によって新しい行動を選択するよりも、不安感が作用して過去の経験や習慣に頼ってしまうということ。
- ⑤ 人の思考や行動は、宿命的な定められた規範に則って為されるものであり、その規範から逸脱することは許されないということ。

問3 傍線部(イ)「現実というものはどんどん先に流れていくのだ」とあるが、この表現から読み取れる「私」の思いについて、①～⑤の中から

最も適当なものを一つ選べ。解答番号は、18。

- ① 毎日が忙しすぎて振り返る余裕も無いままに時間が過ぎていくということ。
- ② 休みたくても家事や育児は自分の都合で待つてはくれないということ。
- ③ 慣れてしまった簡単な作業の連続で毎日が退屈でやりきれないということ。
- ④ 自分が関わっている実感がなくままに周囲の物事が進んでいくということ。
- ⑤ 想定をはるかに超えて世の中の進化のスピードが増しているということ。

問4 傍線部(ウ)「私は傾向的に消費され」とあるが、この意味について説明した①～⑤の中から、最も適当なものを一つ選べ。

解答番号は、19。

- ① 自分の中に知らず知らずででき上がった行動や思考の様式を維持することだけで、自分の人生が終わってしまうということ。
- ② 人生の目的は自分自身では把握できないので、自らにふりかかる現実をその都度受け入れて生きていくしかないということ。
- ③ 自分の人生をたった一つのかけがえのないものとしてではなく、代替可能な機能の一つとしてしか考えられないということ。
- ④ 自分の人生なのに結局自分のやりたいことは何もできず、家族の人生を支えるために犠牲になってしまっているということ。
- ⑤ 自分はこれまで積極的に何かを創造するということがなく、既にあるものや考え方に従って生きて来たに過ぎないということ。

問5 傍線部(エ)「私は図書館の机に向かって首を振った」とあるが、ここでの「私」の気持ちについて説明した①～⑤の中から、最も適当なものを一つ選べ。解答番号は、20。

- ① 自分の人生が虚しいものであるという事実を受け容れたくない、という気持ち。
- ② 眠りについて書かれている本の記述は本当に正しいのだろうか、という気持ち。
- ③ 眠ることができない異常な状態に心身ともにもう耐えられない、という気持ち。
- ④ これまでのような人生を今後も歩んでいくことはもはや無理だ、という気持ち。
- ⑤ 人生における真の幸せを自分自身の納得のいくように探したい、という気持ち。

問6 空欄一に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つだけ選べ。解答番号は、21。

- ① 普遍的
- ② 主体的
- ③ 生命的
- ④ 現代的
- ⑤ 特権的

問7 傍線部(オ)「私の精神は私自身のものなのだ。私はそれをきっちりと自分自身のために取っておく」とあるが、ここでの「私」の決意について説明した①～⑤の中から、最も適当なものを一つ選べ。解答番号は、22。

- ① 他者からの期待に応えるために無理をして窮屈に生きていくのではなく、孤立しても自らの信念を貫く人生を送る。
- ② 当たり障りなく生きていくのではなく、心の自由を確保して生きているという生々しい実感を得られる人生を送る。
- ③ 時代の流行や社会の常識に縛られて平凡に生きていくのではなく、自分にしかできないような独創的な人生を送る。
- ④ 現実直面するできごとに翻弄されて生きていくのではなく、何があっても揺るがない平常心のもとで人生を送る。
- ⑤ 肉体的な健康のみを重視していたずらに長い人生を送るのではなく、短くても精神的な高揚感が得られる人生を送る。

問8 問題の文章の構成や表現の特徴について説明した①～⑤の中で、最も適当なものを一つ選べ。解答番号は、23。

- ① 過去と現在を行き来しながら、主人公がこれまでの人生の悔恨を赤裸々に告白している。
- ② 図書館という静寂の空間を舞台とすることで、主人公の孤独な心理が効果的に表現されている。
- ③ 平凡な主婦を語り手とすることで、庶民の視線から現代社会の抱える問題を分かりやすく読者に示している。
- ④ 一人称の独白体で巧みな比喻を用いながら、自らの人生を深く問い詰める主人公を描いている。
- ⑤ 架空の不眠状況を設定することで、日常に潜む人生の落とし穴の不気味さが生々しく読者に迫る。